

令和2年度(2020年度)北海道企業局工業用水道事業経営懇談会 議事録

1 日 時

令和3年(2021年度)3月1日(月)13:30~15:00

2 場 所

北海道庁別館庁舎 10階企業局会議室
(構成員2名は、Zoomミーティングを活用したリモート出席)

3 出席者

村上座長、河野構成員、谷口構成員、山崎構成員、宇野構成員(敬称略)
(事務局)
岡次長、出口課長、寺崎課長、多賀課長補佐、高橋主幹、上田課長補佐、齋藤係長、城岡主任、小山主任

4 議 事

(1) 令和元年度決算と経営改善の状況について

事務局から資料説明(資料1:齋藤係長)
構成員からの主な意見

(資料1に関すること)

【令和元年度決算に関する意見】

《村上座長》

- ・ 決算では、超過料金収入や入札残等により、毎年1億円程度、予算対比で収支が改善するのであれば、営業収支は赤字にならなくて済むのでは。

(2) 令和3年度予算(案)について

(3) 各工水(室蘭・苫小牧・石狩)における契約水量の動向について

事務局から一括して資料説明(資料2、資料3:齋藤係長)
構成員からの主な意見

(資料3に関すること)

【苫小牧工水の動向に関する意見】

《山崎構成員・河野構成員》

- ・ 最近のカーボンニュートラルの動向やEV化の進展による自動車産業への影響と工業用水の利用が継続されるのか懸念される。

《村上座長》

- ・ 電動化であれば、関連する工場の誘致を進めることもあるのではないかと。

【石狩工水の動向に関する意見】

《谷口構成員》

- ・ 石狩工水は、去年作成した10年間の戦略と比べて、契約は、予定通り進んでいるか。また、今回の資料に記載されている今後の契約動向の確実性はどの程度か確認したい。

《宇野構成員》

- ・ 契約水量の見込が計画より上積みされているのは、それ自体大変良いこと。
- ・ 今後の営業活動の実施により、さらなる契約率の向上が求められるが、経営戦略との関係では、特に下がった時の方が問題である。
- ・ 契約率の乖離がどの程度生じた場合に、経営戦略を見直すのか、あるいは、若干の時点修正をするのか考え方を整理する必要がある。

(4)「需要開拓」について

事務局から資料説明(資料4-1、資料4-2:高橋主幹)

構成員からの主な意見

(資料4-1及び資料4-2に関すること)

【インターネット等を活用した動画配信に関する意見】

《河野構成員》

- ・ 動画を作製するのは良いが、情報の更新などのメンテナンスが重要。
- ・ 情報の発信だけではなく、双方向を意識してやりとりができる工夫が必要。
- ・ 何かの情報を発信するだけではなく、ユーザーの声を吸い上げて「つなぐ」仲介者の役割を工業用水ができるような考え方を持った方が良いのではないか。
- ・ 届ける情報発信ではなく、人のためになってあげるという発想が必要。

《宇野構成員》

- ・ 今年度制作した動画は、工業用水が作られていく工程にフォーカスしたものの。
- ・ 一般の人は、工業用水道の施設における工程よりも、その水を使って何をしているのかという点に関心があるのではないか。
- ・ 来年度も動画を制作するのであれば、工業用水道を使うことで工場や施設が動いている様子や、それが北海道の経済に果たす役割が伝わるような内容の方が面白いのではないか。

【企業誘致イベントへの出展に関する意見】

《山崎構成員》

- ・ 単純に「出展してPRしました」で終わるのではなく、実際に出展して手応えがあったのか、3~4年ぐらい前からみて、実際このような会場に出展して繋がったのか。実績があるのとないのでは、大きいのではないか。
- ・ 出展する場合は、何か誘致に繋げるようなひと工夫をされても良いのではないか(例えば、展示物を動画にしてみるなど)。

《河野構成員》

- ・ 例えば、石狩湾新港の運営会社と連携した共同出展はできないのか。
- ・ 企業誘致は、千件当たって1件取れたら良い位の話なので、活動の実績について、来場者やPR資材などの配布枚数を数値化する必要はない。
- ・ 獲得した1件の成果ががすごく大きいので、その間にどれだけの無駄を費やしてきたか、それがむしろ誉れであり、その効果を数値化することに意味はない。

《村上座長》

- ・ ポートセールスで石狩湾新港の宣伝と同時に、工業団地、工水もPRするの

も良いのではないか。

- ・ ビラやパンフレットの配布枚数を説明されても、実感がわからない。それでは、プロモーションになっていないのではないか。

【需要開拓全般について】

《宇野構成員》

- ・ 工業団地で工業用水を使うと何か工場でも建設するという典型的なものしか思い浮かばないかもしれないが、工水の用途をもっと積極的にアピールしても良いのではないか。
- ・ バイオマス発電であれば、どのような会社が新規に取り組むのかというところからアプローチして、工業用水に関心がある企業だけでなく、バイオマス発電に関心のあるような企業にも資料を送ると良いのではないか。

《谷口構成員》

- ・ すでに進出している工業用水を真水に変える機械を使って食品加工を行う企業があるので、採算性など積極的に情報収集を行い、同様の食品加工を行う業者へ提案を行っても良いのではないか。

(5) 改修事業等について

事務局から資料説明(資料5-1、資料5-2:上田課長補佐)

構成員からの主な意見

(資料5-1及び資料5-2に関する事)

【改修計画について】

《宇野構成員》

- ・ この計画によって、どの程度の資産の健全化が保たれるのかという観点から、何か説明があると、もう少しわかりやすい。
- ・ 長寿命化をするということは、財政的には楽になると思うが、一方では何かあったときの安定供給とのバランスを取っていると思うので、その費用と安定供給のバランスが資料で見えると安心できる。

【石狩工水の改修について】

《谷口構成員》

- ・ 苫小牧工水や室蘭工水は比較的計画どおりかと思うが、石狩工水については、令和4年以降の立地案件が計画通り進まない場合、今後の改修事業の規模やタイミングについて、調整する必要があるように思う。

5 その他 特になし。

以上